

夏場の省エネ～エアコンの使用について～



■ 年間では、お風呂と暖房で約半分の CO₂を出しています

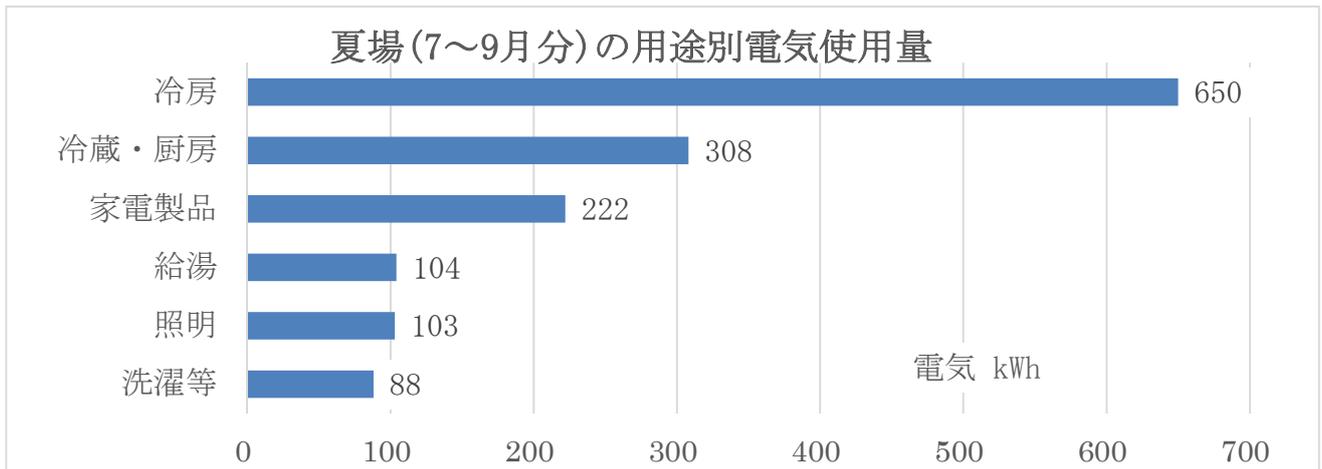
生協ひろしまが、家計簿モニターと省エネトライアル参加の皆さんのデータを基に、家庭の年間部門別 CO₂ 排出量を計算すると、3人家族の戸建ての場合、30%がお風呂、20%が暖房で全体の半分を占めます。

従って、沸かしたお湯を無駄なく使う工夫をすとか部屋の暖まった空気が外に逃げない等に断熱性を高めるなどの省エネ対策が必要です。

■ 7月～9月の夏場は、消費電力の44%が冷房です

夏の暑さは尋常ではなく、命に係わる暑さになってきており、9月下旬にはこたつを出す県北部の庄原市でもエアコンの設置が当たり前になってきました。

7月・8月・9月の3か月間の消費電力を比較すると、1,475kWh の内の 44% (650kWh) が冷房になっています。当然ですが、冷房もほとんどがエアコンの使用になります。



※出典: 生協ひろしま家計簿モニターデータ及び省エネトライアルデータをもとに作成

■ 藁ぶきの古民家に入ると夏場でもヒンヤリを体感

暑い夏に、古民家に入ってヒンヤリ感を体験された方もおられると思いますが、それは、①高い天井で暖まった熱が天井から抜けていく、②ひさしが長く、冬場は太陽光が部屋まで入るが、夏場はひさしに遮られて太陽の光が部屋に入っていない、③土間に塩をまくと湿気を帯び気化熱で気温が下がる。などの効果を組み合わせた生活の知恵と言えます。

■ エアコンに頼らざるを得ない

窓を開けて風を通すことで涼を得ていたのは、昔の話になってきました。防犯上の問題やエアコン等の熱がたまり、通る風が熱くなってしまうなどの事例があります。また、打ち水も、昼間は水蒸気が熱を持ち逆に不快な暑さになってしまうため、朝夕にしか行えません。

頼りはエアコンです。エアコンの消費電力は、20年前のカタログと比較すると約1/2にまで下がり、省エネ性能は格段に良くなっています。ここで、温度設定28℃と思われる方が多いと思いますが、熱中症予防のためには、室温を28℃にすること。外気温によって設定温度を上げ下げする必要があります。

また、省エネ性能は良くなっても、埃がたまる性能が落ちますので、シーズン前にはふたを開けて、フィルターに付いた埃を掃除機等で取り除いて下さい。